

行歯会だより 特別号

(行歯会=全国行政歯科技術職連絡会) 令和4年10月



～故 井下英二先生の追悼文～

井下英二先生を悼んで	全国行政歯科技術職連絡会会長 奈良県福祉医療部医療政策局健康推進課	堀江 博
井下先生の「機転」と行歯会	国立保健医療科学院	安藤 雄一
井下英二先生へ	福井県丹南健康福祉センター（丹南保健所）	市川 郁恵
井下先生へ	兵庫県あかし保健所健康推進課	岡田 浩美
井下先生が教えてくださったこと、そして遺してくださったこと		
	滋賀県東近江健康福祉事務所（東近江保健所）	小幡 鈴佳
井下先生へ	京都府健康福祉部健康対策課	唐木 邦子
井下先生へ	熊本県人吉保健所	楠田 美佳
井下先生へ	岡山県倉敷市保健所	家守 己恵子
井下先生へ	埼玉県保健医療部健康長寿課	小泉 伸秀
井下先生に出会えて感謝	宮城県名取市保健センター 歯科保健事業所	小齋 薫
井下英二先生を悼んで	静岡市口腔保健支援センター	小畑 充彦
井下先生へ	東大阪市保健所	清水 基之
井下先生へ	秋田県健康福祉部健康づくり推進課	田所 大典
井下先生へ	和歌山県福祉保健部健康局健康推進課	得津 康子
「井下英二先生が救った命」	東京医科歯科大学 救急災害医学分野 賛助会員	中久木 康一
井下先生へ	滋賀県立総合保健専門学校歯科衛生学科	那須 保代
井下先生へ	福島県保健福祉部 健康づくり推進課付	沼田 匠
井下先生へ	静岡県東部健康福祉センター	古谷 みゆき
井下先生へ	愛知県大府市健康増進課（大府市保健センター）	本多 さおり
故 井下英二先生を悼んで	滋賀県南部健康福祉事務所（草津保健所）	若栗 真太郎
「行政歯科医ってなんだ？」	神戸市保健所 口腔保健支援センター	渡辺 雅子

井下英二先生を悼んで

全国行政歯科技術職連絡会会長
奈良県福祉医療部医療政策局健康推進課
堀江 博

井下英二先生が去る令和4年7月29日の夜に急逝されました。突然のことでした。お通夜にも参列させていただいたのに、未だ実感がわきません。

今回賛助会員含む会員の皆様に追悼文の寄稿依頼をさせていただきましたが、まさか会長業務でこんなに悲しい仕事をするとは思っていませんでした。会長就任するかどうか迷っていた時、「社会歯科学会が僕がするから、行歯会は堀江君がすればいい。」という電話の声が今でも耳に残っています。

謹んで御冥福をお祈り申し上げますと共に、先生との思い出を記して追悼とさせていただきます。

先生との最初の出会いは、平成6～7年頃の私が阪大歯学部の5年か6年の時だったと思います。予防歯科の特別講義があって、講師が滋賀県庁の井下先生でした。歯科医師なのに臨床でも研究でもない進路があるということを知って驚いたことを覚えています。御講義では「上医は国を医し、中医は人を医し、下医は病を医す」のお話を初めて伺いました。私は卒後母校の予防歯科に大学院生で入局して細菌学の研究で学位取得しましたが、入局にあたっては井下先生の特別講義の影響も大きかったです。

大学院生の時、研究室の大掃除をする機会がありました。2kgの鉄アレイ2つが流しの片隅にあって、「何で鉄アレイがこんなところにあるんですか？」と先輩の先生に尋ねると、「あー、それは昔井下先生がね、実験の合間にトレーニングだって言って、両手に持って、万博外周をランニングしてたんですよ。もう誰も使わないから、堀江君持って帰っていいよ。」とのこと。現在私の部屋にあります。引き続き思い出の品として預からせていただきます。

その頃、何回かご自宅最寄り駅のJR茨木駅界隈で飲み会に御一緒させていただいたこともありました。当時の私は今ほど酒に強くなく、井下先生と同じペースで飲んでいるうちに撃沈して、帰巢本能だけで帰宅、翌朝起きたら昨夜のことは記憶喪失というのが毎度のパターンだったように思います。ありがたいお言葉の数々を一つも覚えておらず申し訳なく思っています。

平成12年、私はタイミングよく大学院修了と同時に奈良県に採用されました。いろいろ心配していただき、御助言もいただきました。「予算要求は気合いだ！財政担当にその事業が必要だという想いをぶつけなさい。」「かがみ文は伝えたい事を魂を込めて書きなさい。」の2点は今でも意識から離れず染みついています。井下先生の御指導のおかげです。

平成17年の夏ゼミを奈良で開催した時は準備が大変でした。当時近畿圏は、井下先生含め私よりはるか先輩の行政歯科医の先生が複数いらして、それぞれ御意見されるので、収束点を見つけるのが困難だったのです。なぜゼミ長の私が舞台上でマツケンサンバIIを踊らなければならなかったのか、その理由はもう記憶にありませんが、日程がすべて終わって運営スタッフ紹介の時、井下先生が「堀江君がゼミ長でちゃんと開催できてよかった！」と、人目をはばからず号泣されたのは今でも覚えています。当時は衝撃と当惑でしかなかったのですが、今になって思えば、打ち合わせで紛糾していたので相当心配かけていたということで申し訳ありませんでした。御指導ありがとうございました。後輩にゼミ長を担当させて自分は支援にまわるといふポジションは、埼玉県の遠藤先生が継承したいみたいです。

平成24年に大阪府の大西先生とともに日本初の歯科医師の保健所長になられた時も衝撃でした。ネットで歯科系のニュース検索をすると、いろいろな業界紙の出版社がこのことを伝えて

いました。私にとっては井下先生も大西先生も身近な存在であることもあって、全然関係ないのに勝手に誇らしい気分になっていました。勘違い甚だしくお詫び申し上げます。

平成 28 年の熊本地震の時は、滋賀県支援隊で現地支援をされました。行歯会だよりの現地レポートの写真は状況がよくわかりました。その頃、井下先生に「機動力とか体力とか凄いですね。」と話したら、「あのね、堀江君。災害支援は 3~4 日お風呂入らなくて着替えしなくても平気な人じゃないと務まらないの。」のお言葉は、環境の厳しさを物語るものとして今も印象に残っています。

令和元年頃、高島保健所長と衛生科学センター所長を兼務されていた時は大変だったと思います。「管内で食中毒があったら、保健所長の井下英二が検体の検査依頼を衛生科学センターにして、結果を衛生科学センター所長の井下英二が保健所長の井下英二に報告するんだ。」と語っておられて、一人で何役もこなしているお姿に畏敬の念を抱くとともに、滋賀県庁の人使いの荒さに恐れを抱きました。しばらくして、「衛生科学センター所長の兼務は外れたねん。」と伺った時はほっとしたものです。

そうこうするうちに昨年滋賀県庁を定年退職され、後進育成のため梅花女子大学に移られたと伺いました。65 歳過ぎてまだ働くのかと驚きましたが、いつも元気で意欲に満ちている井下先生のことです。通勤も近くなるし、元気なお姿しか拝見していなかったのもそれぐらいして当然だと思っていました。こここのところ新型コロナの影響で久しく直接お目にかかれず、社会歯科学会の WEB 会議でモニター越しにお姿を拝見するばかりで、コロナが収まり次第飲み会したいなあと思っていました。でも、これはもう叶わないこととなりました。中締めのお約束のセリフ「宴！たけなわではございますがっ！・・・」も、もう聞くことができません。悔しくて悲しくて仕方ありません。

公衆歯科衛生は残された者で進めていくしかありません。どうぞ本会の活動をお見守りください。今まで御指導賜り誠にありがとうございました。心より御冥福をお祈り申し上げます。

合 掌



井下先生の「機転」と行歯会

国立保健医療科学院
安藤 雄一

井下先生には科学院の研修に何度も講師でお越しいただき、助けていただきました。講師略歴を書いていただいたら「近畿大学野球リーグ戦通算 36 勝 20 敗」とあり少々驚いたこともありましたが、投手らしい方でした。科学院で 3 ヶ月にわたる保健所長コースを受講されていた際は、当時始まったスーパークールビズの短パン姿で元気な声をあげながら科学院の中を闊歩されていた姿など、数々の記憶が蘇ります。

それらのなかで、とりわけ印象深かったのは行歯会設立前（2004 年 9 月 17 日）に盛岡（口腔衛生学会開催中）で行われた会合（プレ理事会・理事会もどき、参加 10 名弱）での「機転」です。この頃は行歯会設立に向けた準備がかなり進んでいて、この会合で人事を決めるという段取りでした。会長は石上先生、副会長は井下先生と北原先生と決まり、これでオシマイになりかけたところ、歯科医師ばかりではまずい、副会長に歯科衛生士を、という意見が出て、それは当然ということで検討が始まりました。ところが、なかなか具体的な名前が出てきませんでした。当時はまだ全国組織でなく他地域の情報に疎かったのです。これは時間がかかりそうだ、と重い空気が支配しかけた矢先、井下先生がやおら携帯電話（当時はまだガラケー）を取り出しました。何だろうと参加者一同が注視するなか、「もしもし～、楠田さんですか～…。仮に、仮にですよ、仮の話になりますが…、行歯会って知ってますよね、仮にですよ、仮の話として、もし貴方が行歯会の副会長になるとしたら受けていただけますか…」と井下先生。参加者一同、一瞬、啞然としましたが、私を含めて何人かは楠田さんのことを知っていましたので、直ぐさま、適任だ、この機を逃すまい、という空気が変わり、井下先生に代わって石上先生が、そして私が携帯電話で「よろしく」と、超強引に説得し、正副会長人事は瞬く間に一件落着となりました。

楠田さんには青天の霹靂で、さぞかし驚かれたと思いますが、井下先生の「機転」が草創期の行歯会を円滑な船出に導いてくれました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。 合掌。

井下英二先生へ

福井県丹南健康福祉センター（丹南保健所）
市川 郁恵

井下先生と当時福井保健所長の四方医師（現若狭保健所長）が、全国保健所長研修で友好であったことから、平成 31 年 1 月健康づくり対策講師として福井県にお招きすることができました。前日までスライドを作成されていたと言われ、155 枚のスライドで精力的にご講演いただきました。この後、本県に歯科保健条例が制定されることとなりました。

井下先生には、多くの指南書を全国発信していただきました。先駆けの歯科保健計画では、「歯つらつしが」と行政刊行物に新造語を用い、教育委員会と共催発行、市町村別・年代別の順位を掲載するなど、斬新な戦略を示してくださいました。「フッ化物洗口マニュアル」は、フッ化物応用の指導書として他職種を導き、厚生労働省ガイドラインの礎となったと思っております。「フッ化物洗口は信じて続ければ必ず効果はある」、「平均寿命延伸の目的は医療費の抑制でなく、〇〇したい、役立ちたい、学びたいといった住民の QOL の向上である」と愉しそうに語られていらした井下先生。ご冥福をお祈り申し上げます。

井下先生へ

兵庫県あかし保健所健康推進課
岡田 浩美

その大きな身体と 大きな声と 大きな心で 行政歯科保健を大いに盛りあげていただき本当にありがとうございました。先生のおかげで保健所での仕事の楽しさが増しました。心から感謝しています。

井下先生が教えてくださったこと、そして遺してくださったこと

滋賀県東近江健康福祉事務所(東近江保健所)
小幡 鈴佳

井下先生、謹んでご逝去をお悔やみ申し上げますとともに、生前の温かいご指導に対し、改めてお礼申し上げます。また、このような企画をしてくださった行歯会役員の皆様にもお礼申し上げます。

井下先生から教わったことは数えきれないほどありますが、何より私が大事にし、また支えにもなったことは、「歯科職は行政ではほかの職種より 10 倍仕事をしないといけないよ」という言葉です。もともと行政志望でもなく、行政の歯科衛生士の仕事に理解がないまま平成 18 年度に滋賀県に採用され、仕事を始めた私ですが、入ってまずこのような言葉をかけてもらいました。

当時、彦根保健所に通いながら、長浜保健所と東近江保健所を兼務し、本務地、兼務地の多くの上司から様々な指導をいただきながらも、どのように仕事をしていけばいいのかわからず悔しさばかり募る私にとって、心のなかでの支えというか、踏ん張りをきかせる言葉となったように思います。

今思えば、県庁に歯科医師 1 人と歯科衛生士 1 人、保健所に 2 人の歯科衛生士という脆弱体制であったので、そこに入った私には多大な期待もあったと思います。しかし、そのようなプレッシャーを当時はあまり感じさせることもなく、行歯会の入会や近歯連の入会をさりげなくお知らせしてくださる先生でした。

5 年間の保健所での勤務の後、滋賀県庁にて一緒にお仕事をさせてもらうことになりました。ちょうど平成 23 年度から 27 年度の 5 年間でしたが、歯科保健計画の改定のみならず、歯科保健法の制定やそれに続く歯科保健条例の制定、口腔保健支援センターの設立など、これまで歯科専門職の思いにより支えられていた滋賀県の歯科保健に、ちょうど骨格ができたというような時期でした。その際には歯科衛生士も増員があり、保健所は 2 人体制から 4 人体制になり、歯科医師も増員されました。当時の嶋村課長がどさくさに紛れて？1 人募集のところを 2 人採用してくださったりと、この歯科衛生士増員に対しては、井下先生と「イヒヒ、しまちゃんやってくれたね～」と喜んだことをよく覚えています。やはり、増員、減員は自分たちが仕事をしっかりしてきたか、という評価でもあるのかな、と自分自身にプレッシャーをかけながらも考えています。増員傾向の滋賀県歯科専門職ですが、今後減員がないよう、しっかり仕事をしていきたいと思っています。

また、歯科保健の条例については、議員提案ではありましたが、作るならちゃんとしたものをつくってもらおうじゃないか、と一緒にたくさん汗をかいて、説明に回って、結果的に満足

いくものを制定してもらったこともその後の滋賀県において、強い武器となっているように感じています。当時のメールを読み返してみましたが、「先生、〇時に〇〇議員に説明に行きます」という私のメールに対し、「はい」と二つ返事で、どんなにピリピリする場面でもドシッと構えて、こなされる先生でした。無事終わった後は一杯飲みに行こうというのが当時の流れでした。コロナまみれになっていて歯科保健がなかなかまともにできない今、振り返ってみると、本当に歯科保健にまみれて楽しく仕事をさせてもらっていたなあと改めて思っています。

また、県庁時代には、歯科保健のみならず、小児慢性特定疾病や介護予防、たばこ対策などの主担当も持たせてもらいました。様々な業務をしながら歯科保健を担当することは、しんどさもありながら、他業務から歯科保健に還元できることなどもたくさんあり、学ぶことも多く、大変有意義な経験ができたと思っています。その際も、やはり、10倍仕事をしないと認めてもらえない〜！と先生の言葉を胸に、踏ん張れたように思います。

その後、保健所に異動して、私も育休をさせてもらったりもしたので、お会いすることは減ってしまいましたが、何かあったら（なくても？）電話で先生を頼ることは多く、本当に頼りにしていたというか、悩んだ時には大きな方向性を示してもらえる先生でしたので、訃報をお聞きしたときには、どうしよう、まだまだ教えてもらいたいことがたくさんあったのに、と涙が止まらなくなりました。

また、フッ素洗口の研究をしよう、歯カーズ（県庁時代に歯科保健技術職でよく集まっていた）で集まろうと何度も言ってもらっていたのに、なかなかコロナや育児で企画することができず、こんなことになってしまい、悔やむ気持ちしかなくなりました。

そんな私に、先輩が、「井下先生は小幡さんに託したんやと思うよ」と言葉をかけてくださいました。井下先生に教えていただいたことは、本当に私が行政で仕事をするうえで基本であり支えになっていることばかりです。例えば「トレンドと経過（過去、現在、未来）をつかむことが大切」とか、「偏った取り方をしたデータも同じ取り方をすれば、傾向は見えるんだよ」とか、エビデンスやデータベースの重要性、国の資料や文書を確認しに行くスキルなどなど。滋賀県の歯科保健では“当たり前”であったことでも、他の分野では当たり前でないこともたくさんある、と中堅期になってくると感じることもありますし、今、1年目2年目の歯科衛生士が入ってきてくれて、当たり前なんじゃないということを改めて感じています。だからこそ、井下先生が教えてくださったことを、言葉にして、資料にして、継承していけるように思っています。

先輩が「託した」と言ってくれたもう一つの意味としては、歯科保健の資料集や歯科保健の計画など、井下先生が全国に先駆けて取り組まれてきたもの、これは歯科保健のプラットフォームになるものかと思いますが、先生のプライドをかけて作り上げてきたものでもありますので、守り、育て、発展させていくことが、私たちにとってできる井下先生への恩返しにもなるかな、と思っています。また、そう考えると私だけでなく、井下先生が全国で色々な方や物に託されたことは多いと思います。まだまだ研究や人材育成など、先生がしようとされていたことを考えると、悔やまれて仕方ないのですが、たくさんの物を遺していただいていますので、託された者が継承、発展させていきたいと思っています。

本当に人の10倍仕事をして、歯科保健を、自分の仕事を周りに理解してもらって、かたちにして、ということ積み重ねて来られたのだな、と思います。先生が熱心に仕事をして、歯科保健のみならず公衆衛生のプロとして、他職種のなかで実績をつまみ、ついには全国初の歯科医師の所長になりました。私に示してくださった言葉は、先生が実践されていたことだったのだな、と今改めて思っています。

医療界での歯科職の立ち位置を十分理解していたからこそその言葉、今は意味がよくわかります。決して隣の席の人が1/10しか仕事をしていないとかいう話ではなくて、歯科保健は当時何

の法的根拠もなく、事業化も難しかったなかで、課題をみつけた者が思いを持って周りに理解してもらい、事業化したり予算化したりと、思いとエネルギーとスキルが人一倍いるんだよ、という話だったのだと思っています。

今でこそ、法律や条例ができて環境は恵まれてきていますが、やはり公衆衛生のなかでは少数職種です。井下先生が遺してくださったたくさんのものを大切に、歯つらつしが推進のため、仲間とともに日々精進していきたいと思えます。

先生、少しぶっ飛ばしすぎたようなので、そちらでゆっくりなさってくださいね。たくさんのことを教えてくださってありがとうございました。私の夫を見つけてきてくださってありがとうございました。大好きです。本当にありがとうございました。

井下先生へ

京都府健康福祉部健康対策課
唐木 邦子

あまりにも突然のことで読み間違えたかと思うほど驚きました。

井下先生とは同じブロックでしたのでお会いする機会は多い方だったと思います。これからさらに多くのことを教えていただけたらと思っていましたのでとても残念に思います。

ご冥福をお祈りいたします。

井下先生へ

熊本県人吉保健所
楠田 美佳

井下先生には、研修会の講師等で何度も熊本にお越しいただき、歯科保健関係者の育成、事業推進に対するご指導・ご助言等、本県の歯科保健推進に多大なるご支援をいただきました。また、平成28年の熊本地震の際には、発災後早期に滋賀県支援チームのリーダーとして阿蘇保健所支援に入っただき、発災直後の混乱していた保健所を支えていただきました。

井下先生は、迷った時、困った時にお尋ねさせていただく先生の一人で、お尋ねするといつもたくさんの資料と助言をくださり、助けていただきました。行政歯科職としてどうあるべきか、地域歯科保健をどう進めていくか等、井下先生から多くのことを学ばせていただきました。

この行歯会設立に私が副会長として関わるきっかけをいただいたのも井下先生でした。設立前のある日、私は帰宅途中だったと思いますが、突然、井下先生から電話が入りました。「行歯会の副会長になってもらえないか」その言葉の意味を理解する間もなく、初代会長の石上先生をはじめ、その場にいらっしゃった先生方が代わる代わる電話にでられ、いつの間にか副会長という話が決まったとの記憶が残っています。井下先生マジックでしょうか・・・

十分に役割を担うことができなかつたとは思いますが、行歯会に関わることで行政歯科職としてあるべき姿等多くのことを学ばせていただき、また、多くの方々のネットワークを築かせ

ていただきました。井下先生からの電話がなければ、行政歯科職としての今の私はいなかったのではないかと考えています。

学会や夏ゼミ等の場で、いつも笑顔で、大きな声で、その会場にいる方に情熱をもって語りかけられていた井下先生の姿が今でも目に浮かびます。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

井下先生へ

岡山県倉敷市保健所
家守 己恵子

井下先生と初めてお会いしたのは、岡山県で夏ゼミが行われたときでした。初めての参加で緊張していた私たちを、笑顔でほぐしてくださったことを、今でも鮮明に覚えています。その後も気さくに声をかけていただき、色々なことを教えてくださいました。

いつも笑顔で接してくださった井下先生、先生から学ばせていただいたことは、今後も日々の業務に活かしていきます。

本当にありがとうございました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

井下先生へ

埼玉県保健医療部健康長寿課
小泉 伸秀

このたびの先生のご逝去の報に接し、謹んでお悔やみ申し上げます。
行政歯科医師として右も左も分からない私を、夏ゼミや学会など、折にふれ激励くださいました。

先生の厳しくも愛情あふれるお言葉、そして温かい笑顔が忘れられません。

心から尊敬と感謝を捧げ、ご冥福をお祈りいたします。

井下先生に出会えて感謝

宮城県名取市保健センター 歯科保健事業所
小齋 薫

突然の訃報に接し、心よりご冥福をお祈りします。
2007年の学会でたくさんの方々とは談笑されていた先生と出会い、「夏ゼミ、良かったら来てみたら、楽しいで～」と、笑顔でお声かけて頂き、先生の気さくな御人柄に引き寄せられるよう

に「行ってみたい」とその年の夏ゼミに参加させて頂きました。“情熱あふれる井下先生”と全国から熱い、素晴らしい先生方や歯科衛生士の方々との研修会は驚きと感動でした。その後常に行歯会メールで最新情報を発信して頂き、先生の解説はとても分かりやすく、勉強になります。今も歯科衛生士として常に前向きな気持ちで市民に寄り添い、歯科保健事業に携わっていられるのは、あの時に先生に出会えたからと思います。

絶妙なトークとお人柄で、親近感を持ちました。先生の多忙なスケジュールの中で、仕事を終えての帰路の東京大阪間の新幹線「居酒屋のぞみ」での缶ビールは最高と、心地よい時間だった様子をメールで時々報告を受けたことが懐かしく、たまに新幹線から送られる富士山の写メにとっても癒されました。

震災後、先生が仕事で仙台に来られた時に突然連絡を頂き、「美味しいお店を教えて」と、食事しながら先生がいち早く災害支援に来られた時の話や私自身が被災しながら歯科保健活動した話に労いとエールを頂きました。先生に出会えて心より感謝しております。

井下英二先生を悼んで

静岡市口腔保健支援センター
小畑 充彦

初めてお目にかかったのは厚生労働省歯科保健課在職時でした。私自身が大阪大学大学院の出身ということもあり、気軽に声をかけてくださいました。その後、秋田県庁、和歌山県庁で仕事をするにつれ、なんと偉大な先輩を持たれたことかと思うに至りました。

和歌山県庁在職時には健康寿命延伸に関する課主催の講演会に講師としてお越しいただきました。いつものように極めて理論的なのに、おもしろく話していただき、聴衆の心を驚掴みにされていました。もちろん、その後の懇親会では先生の大好きなお酒を楽しみました。やっぱり健康づくり、たばこ対策の話をしなごら。

井下先生が行政歯科保健専門職の先駆者であることに誰も異論を唱えることはないでしょう。まだまだいろいろなことを教わりたかったです。早すぎです。御冥福をお祈りいたします。

井下先生へ

東大阪市保健所
清水 基之

突然のことで正直驚いております。先生と最初にお会いしたのは、近畿地区府県・保健所設置市等歯科保健主管課長会議の懇親会でした。

最初は一風変わった格好をしている変な先生だな、と思いましたが、気さくに色々とお話ししてくださり、東大阪市に赴任したばかりの小職にとっては大変ありがたかったです。

その後も困ったことがあれば個人的にご相談に乗っていただいたり、非常に感謝しておりました。

滋賀県庁を退職され、梅花女子大学へ赴任された後も、地域保健研修で大変お世話になりました。

今後も色々ご指導いただきたいと思っていた最中の出来事で、残念で仕方ございません。心からご冥福をお祈りいたします。

井下先生へ

秋田県健康福祉部健康づくり推進課
田所 大典

「アローハ！」私が初めて参加した夏ゼミの会場で一際大きな声で叫んでいた井下先生。学会のシンポジウムで滋賀県の健康推進施策の成果について熱く真剣に語っていた井下先生。

たくさんの笑顔と学びをありがとうございました。

井下先生へ

和歌山県福祉保健部健康局健康推進課
得津 康子

行政に入ったその年、「夏ゼミ」でインパクト大の先生にお目にかかって以来、「困ったときの井下頼み」ではないですが、本当に沢山お世話になりました。

「おっはー」から始まる不意に届くメールは滋賀県以外の地から届くことも多く、先生の御活躍の場が多岐にわたることを示されておりました。最後まで後進の育成に尽力され、まだまだやりたいことが山の様にあったことを思うと、早すぎるお別れが残念でなりません。どうぞ安らかに眠りください。

「井下英二先生が救った命」

東京医科歯科大学 救急災害医学分野
賛助会員 中久木 康一

井下先生の最初の印象は、「えらい多動だなあ」という感じでした。東日本大震災後、2011年5月に国立保健医療科学院で行われた研修会で「東日本大震災支援先遣隊報告」を聞きましたが、

その時は挨拶程度でした。その後、災害時の歯科保健医療体制の整備を全国的に進めるためにいろいろな人に働きかけ、公衆衛生マインドに火がついた北原稔先生が方針の合意形成をはかるワークショップなどを開催し、それらにも参加して下さっていました。その頃に保健所長となり、ずばっと切り込んで来るような発言もいただいてありがたかったりしましたが、とにかく、身体も動きも声も、そして内容も、存在感がありました。

2016年4月に平成28年熊本地震が発生すると、またもや先遣隊となり、歯科チームの初動調整段階でも多くの情報をくださり、そして引き継いでくださいました。

下記、福岡県歯科医師会から派遣され、南阿蘇地区の外部支援コーディネーターを務められた、太田秀人先生からいただいた言葉です。この、キャプテンからの言葉を、南阿蘇地区の歯科支援チーム一同として、井下先生に贈りたいと思います。

南阿蘇地区には、井下先生が救った命がある。

あの当時の1週間では気付かなかったけれど、今は心からそう思います。

当時の状況を、外部歯科支援コーディネーターとしての立場から振り返れば振り返るほど、地元歯科医師会の田上大輔先生、保健所支援チームの井下英二先生、日本歯科医師会コーディネーターの中久木康一先生が果たされた役割の意味に気付き、そのうちの誰か一人でも抜けていたら、あのような活動は出来なかつただろうと思います。

井下先生のごことは、熊本地震以前から、福岡での食に関するメーリングリストで「歯科医師の保健所長」として知っていましたが、まさか偶然にも、災害歯研（日本災害時公衆衛生歯科研究会）のメーリングリストの中にもそのお名前があり、しかも、南阿蘇村でお会いできるなんて…、奇跡です。

そのおかげで私たちは、南阿蘇村に到着直後に、井下先生から全体アセスメントを引継ぐことができ、田上先生と新生育子先生から地元の情報と全体会議の情報を引継ぐことができました。歯科集団アセスメントの前には、井下先生から我われ素人集団にアセスメントのノウハウを伝授して欲しくて、頼み込んで、頼み込んで、忙しいのにも関わらず、無理やり承諾いただいて同行していただくことができ…。

あとは自分達で必死こいて必死こいて…、まとめ上げることが出来ました。

その時間は、たしか、約24時間だったかなあ。

今でも、リアルに思い出します。

「おお～、中久木君の知り合いなん？ほな、よろしく頼むわあ！」

「歯科ニーズ？あるよ。ほな、あとはヨロシク！」

「アセスメントどないなつた？おお～、すごいやん！ビックリや！こりゃ、参りました！」

「みんなすごいな！記念撮影しようや。ニッコリいこうで！」

井下先生と田上先生が、外部歯科支援チームのムードメーカーでしたね。

どうしても歯科支援チームは「歯」と「口」ばかりで視野が狭くなりがちなので、保健所チームによる「まずは命・生活・環境、その中での歯科」という視点は絶対に必要だと思います。

心から、ご冥福をお祈りいたします。

井下先生、ありがとうございました。



井下先生へ

滋賀県立総合保健専門学校歯科衛生学科
那須 保代

井下先生とは平成9年4月から滋賀県庁健康対策課（当時）で一緒に仕事をさせていただきました。

本庁での9年間はもちろんのこと、平成18年4月に現職場に異動になってからも、今日まで本当に頼りにさせていただいていました。

本庁では、滋賀県歯科保健関係資料集の作成や滋賀県歯科保健実態調査、母子保健や口腔ケアマニュアルの作成など、連日遅くまで作業したことが懐かしく思い出されます。

先生の歯科保健に対する熱い思いが強すぎて、ハラハラすることも度々ありましたが、滋賀県各保健所に歯科衛生士が配置されるようになったのは、他でもない先生のお力の賜物です。

滋賀県を退職されてからは、複数の科目の授業をお願いしていました。毎回講義の日には授業開始の1時間ほど前に「まいど～」と言いながら教務室に来てくださり、講義資料の説明や梅花女子大学の話を沢山してくださっていました。

何度か体調が悪く講義日の変更をさせていただいたことがありましたが、7月7日に来て下さった時は、いつもと変わらずお元気そうでしたので、本当に本当にびっくりしました。

7月29日は、近畿北陸地区歯科衛生士教育協議会で参加者名簿に井下先生のお名前がありました。Zoomで参加されていたので、その翌日連絡を受けた時は、あまりのことに直ぐには信じられませんでした。今でもまだ実感がありません。

「まいど～」という先生の声が聞こえてきそうです。

先生には本当に本当にたくさんのお話を教えていただきました。一緒に仕事をさせていただけたこと、感謝の気持ちでいっぱいです。

このような突然の別れは、とてもさみしく辛いです。

先生のご冥福を心からお祈りいたします。

井下先生へ

福島県保健福祉部 健康づくり推進課付
沼田 匠

この度の井下先生のご逝去の報に接し、夫婦共々、心よりお悔やみ申し上げます。

井下先生には、臨床から行政に移ったばかりの頃から相談に乗っていただきました。その後、日本口腔衛生学会認定医試験の時には担当試験官として口頭試問の折にお褒めいただき、その後の研究活動の励みとなりました。

2011年の東日本大震災の被災者支援活動の際には何度も励ましのお言葉もいただき、2014年に県庁から衛生研究所に異動となった際にも、数少ない衛生研究所勤務の行政歯科医師の先輩として相談に乗っていただきました。

2018年11月25日には福島県立医科大学でのシンポジストとして来県され、拙宅そばにて私ども夫婦の愚痴や相談に長時間お付き合いいただいたのが直接お目にかかれた最後の機会です。

た。「次に会える時を楽しみにしているよ」という言葉が、先生からいただいた最後の言葉でした。その時のアルミ缶を片手にお話しになっていた光景が今も思い起こされます。

今、ここに幽明境を異にして先生が去られる事は誠に残念ではございますが、残されたご遺族にご加護を賜ります様お祈り申し上げ、お別れの辞と致します。どうか安らかにやすみ下さい。

2022年9月2日

福島県 沼田 匠・志穂

福島民友新聞〔福島医学会シンポジウム記事〕

<https://www.minyu-net.com/kenkou/cyoujyu/FM20181126-328563.php>

井下先生へ

静岡県東部健康福祉センター（東部保健所）

古谷 みゆき

先生、本当に長い間ありがとうございました。その言葉以外に思いつきません。

ふと思い出すのは、ユーミンの名曲「やさしさに包まれたなら」です。たぶん夏ゼミの懇親会で、順番に1曲ずつ歌うことになり（？）自分の好きな曲をリクエストしたのに、うまく歌えず・・・困っていると、「ええ歌やね。」と言いながらそばに来て、井下先生が、一緒に歌い始めてくださったのです。

今年3月、静岡県の「オーラルフレイル連携体制整備検討会」において東京歯科大学の田口教授とお二人で、とてもパワフルな講演をしていただきました。この検討会は、小学校におけるフッ化物洗口の推進を主眼にしていたので、先生は竜王町の事例「竜王！茶！茶！茶！運動」を紹介してくださいました。調査からジュースをよく飲む子はむし歯が多いことを明らかにし、おやつ指導としてジュースの代わりにお茶を飲ませるため、子どもたちに水筒を配り、お茶を持参させる環境整備をされたのです。合わせてフッ化物洗口も開始されています。なかなか開かない扉を、先生が柔軟な発想でヘルスプロモーションを実践し、町ぐるみの歯科保健を楽しく進めて行く様子がすばらしくうらやましくお聞きしました。

その時の最後のスライドは「平均寿命・健康寿命」と「喫煙」と「口腔機能」のトライアングルで、むし歯と歯周病を予防し、口の機能の維持向上ができることを、皆さんにしっかり伝えてくださいました。

参加者のアンケートには、「また講演をお願いしたい！自分の市町にも講演に来てほしい！」

と先生へのメッセージがたくさん書かれていました。先生が「沼津の美味しい魚が食べたい！沼津に行きたい！行きたい！」と何度も言われましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の真っ最中でWEB開催となり、今回は対面にしましようにとお話をしていました。このような追悼の文を書くことになるなんて、想像もつきませんでした。

困った時には親身に相談にのって下さり、時間をかけて作成された資料を惜しげもなく提供して下さい、その度に助けていただきました。本当にありがとうございました。

先生にお会いしてから20年以上の時間が過ぎましたが、先生の態度はその時から変わらず、「こんな資料を作ったけどどう思う？」といつも新しいアイデアを考えられていました。

先生なら、このコロナ禍をどう乗り越えられますか？

井下先生、本当にお世話になりました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

井下先生へ

愛知県大府市健康増進課（大府市保健センター）

本多 さおり

井下先生の歯科保健に対する思いは熱く、人に対する思いは温かく、先生にお会いすると不安が和らぎました。短い間でしたが、お世話になりありがとうございました。

故 井下英二先生を悼んで

滋賀県南部健康福祉事務所（草津保健所）

若栗 真太郎

「滋賀県に井下というユニークな歯科医師がいる」

40歳代以上の歯科行政関係者であれば、言葉の表現は違えど、同じ印象を持っている方は多いのではないのでしょうか。私がまだ歯科行政に足を踏み入れる前の大学院生時代、夏ゼミ 2008 in 北海道にて、井下先生に初めてお会い（お見かけ）した際も、井下先生から強烈な印象を受けたことを記憶しています。良くも悪くも、行政職という（お堅い？）イメージを覆すパワーとキャラクターを目の当たりにしたせいだと思います。加えて、北陸～東北育ちだった私から見て、言葉遣いやキャラの濃さから「絶対にこの人、大阪の人だ」と思いこんでいたところ所属が滋賀県だったことも意外な印象として残っています。（実際は大阪から滋賀県に通勤していたという事実が分かり、妙に納得しました。）

その後も、関係の学会や勉強会でお見かけするたびにそのユニークなキャラクターが印象的で、何となく記憶に残る先生であり続けました。何の奇縁か、私が滋賀県に入職することになった際も、滋賀県と聞いて真っ先に思い浮かんだことは、井下先生がいる県だなということでした。

多くの方にとっての井下先生は、夏ゼミや社会歯科学会で見かけるいろいろ大柄な人で、多分に酒豪のイメージが付きまとっていることかと思えます。私も滋賀県に入る前まで、まともにお話したことはありませんでした。普段、日中は滋賀県でどのように過ごしているのか、仕事しているのかと興味と不安をお持ちだった方もいるかと思えます。この度、井下先生のことを偲びつつ、私の感じた範囲、思い出せる範囲で滋賀県での井下先生を振り返りたいと思います。

私が滋賀県に入庁した2012年（平成24年）、井下先生は県内のとある保健所の所長に就任されており、日本初の歯科医師の保健所長ということで、歯科行政の業界内では話題にもなり、全国的にも注目もされていたのだと思います。しかし、案外、当事者である滋賀県内においてはそのことが大きく取り沙汰されることなく、自然なかたちで保健所長の一人として振舞っていました。これは、それまでの滋賀県職員としての井下先生の立ち位置や業務、立ち振る舞いの中に、自他ともにいずれ環境が整えば保健所長になるだろうとの意識というか予感があったのだと想像しています。あとから聞いた話では、井下先生が保健所長になるかならないかは内部で散々事前に話し合われたものであり、ある程度の時期からは、ありきで準備が進められていたとのことでした。ただ、やはりと言いましょか、部内においてはユニークな存在として名が知られており、私が入庁した頃の頃、上司や先輩に、「井下先生の後輩なの？」「あ

なたもお酒飲むの？」とよく聞かれたことを今でも覚えています。滋賀県内においても、概ね周りからの印象は夏ゼミや社会歯科学会で得られる印象と変わらないことが伺えます。

県職員として業務を進めるにあたって特徴的だったのは、数字、データを多用することでした。アカデミックなデータの扱いというよりは、相手に対していかに印象的に、分かりやすくこちらの考えを伝えるかという観点で数字を用いることが井下先生の仕事の特徴の一つだったと思っています。このため、御自身の業務中の作業も部下への作業指示もデータ収集と分析に重きが置かれることが多かったと、井下先生の直属の部下として働いていた知人から聞いたことがあります。

井下先生本人が語っていたことですが、もともと当時の予防歯科の出身であり、研究対象は細菌だったとのこと。口腔内細菌のコントロールによる歯科疾患予防が主題でしたが、滋賀県に入職して主題が公衆衛生になってからは、考え方やデータの使い方も変える必要があったため勉強し直したということでした。井下先生の講演を聞いたことがある方ならば、多種多様なデータを駆使して、分かりやすく時には印象的に主題を説明する姿を思い出されないでしょうか。講演のスライドを共有していただく際は、その容量の大きさに閉口することもままありました。

歯科行政、歯科保健に関する業務においては、保健所長や県の保健医療福祉の管理職という立場上、一定の達観したスタンスをとっていたように思います。歯科疾患は理論上予防可能であり、その方法も確立しているの、あとはシステムとしてどう組み込むかだけの問題ということを経験してしばしば発言されていたのが印象的です。私は今でも全くその通りだと思っています。しかし、その通りではあるが、自治体、歯科保健医療関係者、対象住民を巻き込んだシステムを作り上げることの難しさもよく御存知であり、作り上げるための正攻法も複数のパターンを心得ていることから、基本的な考え方は示して、あとはその時々担当者の自身の業務の範囲で進めるべしといった進め方だったと認識しています。具体的な結果にはあまり頓着がなく、私が歯科保健業務の進め方で苦戦している時には「歯科は若栗君の好きにやっていたよ。僕も好きにやらせてもらったし」と声掛けしてもらったことが印象に残っています。できれば、もう少し具体的な方向性のアドバイスや指示が欲しかったことが今となっては昔の話です。

また、長く滋賀県の保健福祉行政に携わっていたこともあり、施策の歴史や経緯も良く御存知でした。名前や対象を変えながらも長く続く事業や会議が歯科に限らず色々ありますが、そのような歴史ある事業や会議がどのような経緯で始まって、いかなる紆余曲折を経て今日に至るかを語ってもらえば右に並ぶ者がいなかったのではないのでしょうか。事業や計画の検討会議においても事務局や議長から何かこれまでの経緯を知らないかと委員である井下先生を名指しして発言を求めることもよくある風景でした。

齢を重ねて古参の一人となっていましたでしたがフットワークの軽さも特徴的でした。私の知る限りでも、東日本大震災、熊本地震の被災地支援に行く際は、滋賀県の支援班の第一陣にその名前が記されていました。持ち帰ってくる、あるいは現地から発信される情報は、後続の支援者たちの心的、物的準備にとっても有用なものであったと聞いています。

少し視点をかえると、仕事のこと以外で造詣が深かったのは日本史であり、特に近畿、関西を舞台とした古代から中世前期がお好みだったと見受けられました。リュックサックの中にはランチパスポートと歴史関係の書籍が常に入れており、名所旧跡にとどまらず、その地域で知る人ぞ知るような史跡にも興味を示し、歴史における位置づけを多角的に確認することが楽しいようでした。一緒に移動をしながらそのような場所を横切の際は興味深い蘊蓄を披露してくださることもありました。

さらに、井下先生を語るうえで切っても切り離せないのはお酒にまつわるお話ではないでしょうか。本当にお酒が大好きで、職場の節目の懇親会や歓送迎会、出張と会合に付随する情報

交換会、勉強会やら研究会やらと称した食事は、他の飲み会が重なってない限りは必ずと言っていいほど参加して下さっていました。良い酒、悪い酒、併せ飲む部分もあり、県庁勤務になるとお酒の量が増えると嘯いてもいましたが、すごくよくわかります。誰よりも宴席が好きな井下先生にとって、新型コロナウイルスの影響は人一倍大きなものだったのではないのでしょうか。何より、滋賀県の退職にあたり正式な記念パーティーが出来ず仕舞いのままなのは、多くの関係者にとっても悔やまれることだろうと思います。

私は井下先生と同じ歯科医師という立場で入職しているため、同じ職場になったことは一度もありません。このため、本当の意味での滋賀県における普段の井下先生のごことは存じ上げない部分も多いのですが、知りうる範囲や伝え聞いているだけでも、たくさんのエピソードに彩られた滋賀県職員だったのだと感じます。いわゆる名物職員の一人であり、行政歯科の業界で放っていた異彩は滋賀県内でも変わることはなかったと、井下先生を慕っていたいた方々にお伝えしたいものです。

最後に、急逝の報に驚き、悲しみ、心よりお悔やみ申し上げるとともに、井下先生が多くの仲間や先達と拓き歩んできた歯科行政の道が後進につながることを祈念いたしまして、追悼文に替えさせていただきます。

「行政歯科医ってなんだ？」

神戸市保健所 口腔保健支援センター

渡辺 雅子

井下英二先生との出会いは、「行政歯科医ってなんだ？」という論文（歯界展望 vol. 94 No. 5 1999年11月）です。

2002年4月に神戸市保健所に勤務することになった時、当時の上司（神戸市立中央市民病院 歯科口腔外科の田中義弘部長）から「頑張ってこい」というメッセージとともに渡されました。当時、地域歯科保健研究会（夏ゼミ）の7人の主要メンバーが、歯界展望の連載「地域の窓からみえること/保健・医療・福祉」として、持ち回りで執筆を担当されたようです。

「行政歯科医」という響きがかっこよく、それ以降、行政歯科医の大先輩として憧れの存在であり、勝手に師匠と仰いでいます。「行政歯科医は行政と歯科医師会との間の通訳である」を実践すべく取り組んでいます。

神戸市で初めて歯科口腔保健計画を作ることになった際、前述の元上司（当時は神戸市歯科専門役）と一緒に、井下先生を訪ねて、滋賀県歯科保健計画一歯つらつしが21を策定されたノウハウなどいろいろと教えて頂きました。そのおかげで2014年3月に「こうべ歯と口の健康づくりプラン」を策定することができました。

折に触れて、口腔衛生学会で、近畿地区歯科保健課長会議で、講演会で、夏ゼミで、時にはメールで・・・といろいろと薫陶を授けていただいたおかげで、神戸市でも少しずつ歯科口腔保健の推進体制が整備されてきました。

熱い情熱をお持ちで、パワフルで、別格の存在でした。岩手で夏ゼミが開催されたとき、わんこ蕎麦を人一倍たいらげて一番になって南部鉄器をお土産にされたこと、本当に驚きました。何事も全力で一生懸命に取り組まれる姿に改めて感動しました。

行政歯科医としてだけでなく、さらに保健所長として「上医は国を医す（癒す）」を実践されたこと、誇りに思います。もっともっと教えて頂きたかったです。残念でなりません。

ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

